

松江市の「ヒストリー」とは

松江市は令和3年12月に、文化財や歴史文化を保存・活用していくためのマスタープラン、アクションプランでもある「松江市文化財保存活用地域計画」を策定し、文化庁から認定を受けました。この中で、豊かな歴史文化を結び付けたストーリーの連なりをヒストリーと名付け、特徴的なテーマに沿って作成していくことにしました。

“history”という英語は歴史、歴史書、発達史、変遷、来歴、沿革などと訳されます。語源は「知ること、調べることで得た知識」というギリシャ語といわれます。松江市は調査研究を重ね知りえた事実を使って物語にすることを、historyの語源に重ねて「ヒストリー」と呼びます。

今後の調査研究によりあらわれてくる成果も大きな要素として含みこんでいくとともに松江市という行政単位を越えて関連する地域の文化財ともネットワークで結ぶことを構想します。

「ヒストリー」を紡ぐために、松江市は調査研究に力を入れていきますが、市民の皆様が参加する調査研究や他地域の研究者の協力を仰ぐことにより、その厚みが増していきます。これから列挙する「ヒストリー」は完成形ではなく、多くの人々がかかわることで更新され、また新たな「ヒストリー」が生まれることが想定されます。市民の皆様により歴史が共有されることにより松江の価値が高まるとともに、松江市民による地域づくりにつながり、継続的な関係人口の増加につながっていくことを目指します。

具体的には、①**松江の歴史文化を伝える手段（ツール）**として、②**今後の調査研究テーマ**として、③**活用の素材として（地域振興素材、教育素材、産業振興素材、観光素材として）**、「ヒストリー」を生かしていきます。

『出雲国風土記』と松江のヒストリーの構成

1

「『出雲国風土記』と松江のヒストリー」は、全般の解説を行う「本文」、『出雲国風土記』の項目一つ一つを詳しく説明する「詳細解説」、『出雲国風土記』にかかわる随筆の「エッセイ集」、内容を深掘りして記す「コラム集」、『出雲国風土記』のなかで松江市に関わる部分の原文（漢文）の読下しを示した『出雲国風土記』読下し編からなります。

2

執筆は以下の者があっており、それぞれ表紙と奥書に執筆者を示しています。職名は令和7年度末のものです。

- 野村 律夫（島根大学／島根半島・宍道湖中海ジオパーク・専門員）
- 三代 隆司（島根半島四十二浦巡り再発見研究会会員）
- 森田 喜久男（淑徳大学文学部教授）
- 丹羽野 裕（松江市文化スポーツ部文化財総合コーディネーター）

3

全体の編集は、事務局（松江市文化スポーツ部文化財課、松江城・史料調査課）と松江市文化財保存活用地域計画協議会の監修のもと、丹羽野裕が行いました。

4

『出雲国風土記』の原文は漢文ですが、引用する場合は読下し文で記載しています。読下し文は『松江市史 資料編3 古代・中世I』を参照していますが、状況に応じて『出雲国風土記―校訂・注釈編―』（2023 島根県古代文化センター編）を参照している場合もあります。

5

出典を明示していない写真等は松江市が撮影・作成したものです。、出典を明示すれば利用は自由です。

6

他機関の出版物等や先行研究を参照した場合には出典を明記しています。二次利用はできません。

7

令和8年3月31日現在での、このヒストリーの構成は次ページのとおりです。

8

ヒストリーの全体構成計画は次々ページの表のとおりです。

9

令和8年3月31日現在でインターネット上に公開しているのは全体の一部です。今後、整ったものから順次公開していきます。

< 公開中 >

A 本文編 (全5章)

本編

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147298>

B 詳細解説編

1 『出雲国風土記』と松江の山と野 詳説

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147302>

C エッセイ集

1 『出雲国風土記』の郷の伝承 〈松江市編〉 [森田 喜久男]

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147303>

2 『出雲国風土記』の山 登頂記 —「風土記の山」の風景と魅力— [三代 隆司]

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147304>

3 『出雲国風土記』にみる古代人のレジャーと観光 〈松江市編〉 [森田 喜久男]

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147305>

D コラム集

1 地質学からみた『くにびき神話』 [野村 律夫]

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147306>

2 『出雲国風土記』の布自枳美高山・女嵩山と嵩山・和久羅山

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147307>

3 『出雲国風土記』に登場する豪族 出雲臣と社部臣

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147308>

E 読下し編

(松江市部分 巻首・意宇部・島根郡・秋鹿部・巻末の一部)

<https://sitereports.nabunken.go.jp/147309>

● 『出雲国風土記』と松江の歴史 「全体構成」 予定（黄色塗りは2026年3月公開）

	A 本文編	B 詳細解説編	C エッセイ集	D コラム集
第1章	『出雲国風土記』とは ----- 1. 『風土記』とは何だろう 2. 『出雲国風土記』はなぜ残ったのだろう			写本について
第2章	『出雲国風土記』の中の松江 ----- 1. 『出雲国風土記』が編纂された場所 2. 「郡」と「郷」と松江市 3. 記載が豊富な松江市域			1. 地質学からみた『国引き神話』
第3章	描かれた松江 ----- 1. 郡の名前の由来の伝承・神話 2. 郷の記載と名前の起源伝承 3. 新造院 4. 神社 5. 描かれた山と野 6. 描かれた河川 7. 坡（つつみ）・陂と池 8. 入海の情景 9. 大海（北海）の情景 10. 役所と行政機関 11. 描かれた古代人のレジャーと観光		1. 『出雲国風土記』の郷の伝承 嶋根郡に新造院はなかったか 風土記社をめぐる	百八十神と風土記
		1. 『出雲国風土記』と松江の山と野	2. 『出雲国風土記』の山登頂記	2. 『出雲風土記』の布自積美山・女嵩山と嵩山・和久羅山
		河川詳説		河と川は違うのか
			佐太水海と黒田陂	恵曇陂と佐太河
		入海詳説		大井浜の須恵器生産
		嶋と濱、埼詳説		
			山陰道と枉北道	出雲国府の発掘調査／発掘された朝酌渡
			3. 『出雲国風土記』にみる古代人のレジャーと観光	
第4章	松江にいた豪族（氏族） ----- 1. 役人は地元の豪族 2. 『新造院』を建立した豪族たち 3. 伝承や功績を残した豪族たち			3. 『出雲国風土記』に登場する豪族 出雲臣と社部臣 神賀詞奏上と出雲臣の伝承
第5章	『出雲国風土記』のここが面白い ----- 1. 『出雲国風土記』は事実を語る 2. 『出雲国風土記』は今につながる 3. 文学としても楽しめる『出雲国風土記』		『出雲国風土記』の面白さ	
終章	『出雲国風土記』を未来に			
E 『出雲国風土記』読下し編（松江市部分 巻首・意宇部・島根郡・秋鹿部・巻末の一部）				

『出雲国風土記』 と 松江の 歴史

はじめに

『出雲国風土記（いずものくにふどき）』という言葉は、多くの市民の方がご存じだと思います。たとえば、くにびき大橋や「くにびきメッセ」などの名のもとになった「国引き神話」は、『出雲国風土記』の冒頭に記載された壮大な詞章です。

一方でその内容や詳細は意外と知られていません。この歴史では『出雲国風土記』に描かれた松江について、少しでも知っていただきたいとの思いから紡ぐものです。

本歴史の構成

『出雲国風土記』には8世紀の出雲国についての情報があふれています。少しでも多くの情報を届けたいと思いますが、これまでの歴史のように、1本の物語のようにしようとすると、とても長いものになります。

そこで、本歴史は5章からなる本文に加え、以下の項目を別に立てて「特別編」とし、詳細を知りたい方へのガイドの役割も果たしたいと思います。

B 記載された個別項目の詳細解説

松江にかかわる個別の山や川などについて、詳しくお話しします。

C エッセイ

描かれた内容について、詳しい方や特別な思いをお持ちの方に随想をつづってもらいます。

D コラム

深掘りすると面白い記載内容は、コラムとして取り上げます。

E 附編『出雲国風土記』読下し編

以上のような構成とするために、専門家や歴史を愛好する市民の方々にも執筆いただきました。書きぶりや表現の仕方がそろっていないのはそのためです。ご容赦ください。